



霧の立ちこめる阿蘇山



雨の中、柳川の舟下り



雲仙災害記念館の災害家屋



長崎で下平さんの戦争体験を聞く



雲仙の新溶岩ドーム「平成新山」を背景に

高等学校・九州修学旅行 10/25~29

実際にいき、見ることの
重みを実感した5日間

修学旅行の目的は、「実際に見る、体験することです。生徒は事前学習で作ったパンフレットを携えて出発しました。

初日の柳川の舟下りはあいにくの雨で、合羽を着て実施。増水でトンネルくぐりもギリギリでしたが、舟下りは忙しい日常から離れて、「ゆつたり」としたい時間でした。と感想を書いた生徒もいました。吉野ヶ里遺跡は、北墳丘墓での甕棺列にじつくり見入り、時間が足りなかった生徒も多かったようです。

2日目は阿蘇山へ。強風と霧の中を粘った生徒たちは、山頂から一瞬見えた深緑のカルデラに歓声を上げていました。

3日目は雲仙災害記念館と災害家屋の見学後、長崎で平和について考えました。被爆者の下平作江さんの講演では、「私は家族が生きているのだから、大切にしなければならな」と書いた生徒がいたように、戦争の悲惨さを自分たちのこととして考え、伝えていかなければという思いを新たにしました。その後、原爆資料館の見学に続いて、平和セレモニーを行いました。

4日目は長崎での班別の自由行動。生徒たちは、キリスト教の哀史、国際の窓、原爆と、多くの歴史を刻んだ坂の街を路面電車

で移動し、中華街での食事を楽しみました。最終日は九州国立博物館と太宰府天満宮。暖かな日差しの下、生徒たちは絵馬に願掛けしたり、「どのお守りが効くかな」と先輩への土産を選んだりしていました。

今年度は学年全体で移動し、学年としての一体感があつたようです。



太宰府天満宮

CAMPUS
REPORT
キャンパスレポート
2010



体験学習 カヌー



体験学習 サトウキビ収穫



戦争体験を伺った宮良さんに花束を渡す



守礼の門



平和祈念公園の平和の火を囲んで

中学校・沖縄研修旅行 11/3~6

沖縄の歴史や文化など、
貴重な体験を重ねた4日間

今年度は新たなコースを組み込み、1日目は体験学習、2日目は平和学習、3日目はクラスごとに分散して米軍基地、自然体験、世界遺産のグスク(城)群、国際通り、4日目は首里城という行程でした。

体験学習は班ごとに分かれ、サトウキビ収穫やエメラルドグリーンの海でマングローブ巡り、紅型、漆喰シーサー作り、三線などを体験しました。琉球菓子作りではエイサーを教えてもらうというおまけも。

平和学習では、元ひめゆり学徒隊の宮良ゆりさんから戦争体験を伺いました。米軍のガス弾で壕にいたほとんどの人が亡くなり、友達も隣で死んだこと。「戦争の悲惨さを、今度は皆さんが次の世代に伝えてほしい」というメッセージを、生徒は真剣に受け止めたようです。

その後はガマ見学へ。当時の暮らしをしのんで懐中電灯を消すと、真っ暗で息苦しい闇に包まれ、負傷兵の手当をする女学生

の姿が想像されました。沖縄には今も多くの米軍基地があります。生徒たちは金網1枚隔てた向こう側に基地かと緊張し、大きな騒音を立てて離発着する戦闘機を間近に見て、平和のありがたさを実感していました。

3、4日目はグスク群や首里城、ガンガラーの谷を訪れ、長い歴史に思いを馳せました。国際通りでは、本土とは異なる山海の珍味にあふれた公設市場を訪れ、食堂で郷土の味も堪能。研修旅行ならではの貴重な体験を重ね、深く学ぶことができた4日間になったようです。



那覇市の国際通り



はッピー広場



模擬店



正門の装飾



後夜祭



メインステージ

長久手
キャンパス

2日間で
1万5000人超が来場

1日目はスペシャルゲストにエニ・CAMOを迎え、体育館の中は観客とゲストが一体となり、いきなり最高潮に。はッピー広場では、長久手町の方々が伝統芸能「棒の手」を披露。フランク作りを行った地域交流企画にもボランティアとして参加していただくなど、地域住民の方の協力も得て、淑楓祭は盛り上がりしました。

ミニゲーム満載のはッピーフロア「It's a happy world」は、2日間常に満員で小さな子どもさんの笑顔に満ちていました。そして今年も途中退場者続出の目玉企画！「お化け屋敷」は最高入場待ち時間2時間を記録し、2日間の入場者数は671人と大盛況でした。

メインステージは例年以上の盛り上がりを見せ、中でも恒例のイチオシ企画「女装コンテスト」Pine of Pineosは今年度、ペアで企画に臨むという斬新な内容で、お客さんも大興奮の60分間でした。淑楓祭ラストの後夜祭にはお笑いゲストの磁石さんを迎え、恒例のバルーンドロップなど、熱気に包まれフィナーレを飾ることができました。

今年度は1日目、長久手秋色ウォーキングの指定ルートに淑楓祭を入れていただき、多くのウォーキング参加者に来場していただきました。そのおかげもあり、2日間で1万5508人もの来場者があり、淑楓祭は大成で終わることができました。



女装コンテスト

CAMPUS
REPORT
2010
キャンパスレポート

第35回・淑楓祭

テーマ「ワンダーランド」
10/30・31

※両キャンパスの大学祭実行委員長に淑楓祭のレポートを綴ってもらいました



階段装飾



模擬店



教室企画



記念会堂での後夜祭

星が丘
キャンパス

盛り盛り沢山の企画で
充実した2日間

心配していた台風も逸れ、淑楓祭は無事予定通り開幕しました。この日のために用意されたたくさんの装飾物により臨場感溢れる会場では、特に人の乗ることが出来る立体装飾物が子どもに大人気！毎年恒例の階段装飾は、多くの方が思わず足を止めるほどの迫力で、お客様も喜んでくださいました。

今年度は目玉企画として、体育館全面を使った「巨大迷路」が好評でした。2日間とも、リビーターが出るなど1時間待ちには当たり前のにぎわい。待合室では小学生の普段の学校生活の映像を流して、お客様が退屈しないような工夫もしました。

このほか、学内のゼミやサークルの特性を活かした教室企画や模擬店、様々な種類のフリーマーケットが注目を集めました。大学祭の華でもあるメインステージは、台風の影響で急遽、場所を記念会堂に変更して行いましたが、大勢のお客様に足を運んでいただき、淑楓祭に一層の彩りを添えてくれました。

大学祭実施のための準備として、実行委員全員で月に1回の清掃活動や、近隣住宅へ1軒ずつあいさつ回りをしました。また、地域の小学校と交流し、小学生と町のごみ拾いやエゴの授業などを行い、地域活動に力を入れました。その結果、大学祭期間中の苦情は0件。地域の方に愛される淑楓祭に成長しつつあることを実感しています。

淑楓祭を共に創り上げてくださった関係者の方々、団体様、お客様に対し、実行委員一同心より感謝申し上げます。



フリーマーケット



子どもに人気だった立体装飾物